

平成26年度 山口県地域福祉推進セミナー及び小地域福祉活動者の集い ～住み慣れた地域で生活し続けていくために必要な地域の仕組み、取組とは～ 開催要項

1 趣 旨

昨今、少子高齢化の進行とともに地域のつながりが希薄化しており、認知症や生活困窮などの状況にも関わらず、行政のサービスや近隣住民の支援を拒否し、社会的に孤立している世帯が増加している。そのような中、高齢者のみならず、障害者、児童、その他支援が必要な状況にある人に対して、その人が住み慣れた地域で生活し続けられるよう、必要なサービスや支援が包括的に提供されることが求められている。

山口県社会福祉協議会では、「住み慣れた地域で誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）づくり」という理念のもとに、福祉の輪づくり運動を展開している。そして困ったときお互いが助け合うことができるように、小地域の福祉活動の充実、活動を継続していくための組織等の基盤づくりに取り組んでいる。

医療、福祉からの支援だけでなく、地域住民が主体となり、従来の見守り活動やふれあい・いきいきサロン、その他新たな支え合いの取組などにより支援が必要な人が地域で住み続けられるよう包括的な支援を行うために、今どのような取組が地域において求められているかを学ぶとともに、これまでの地域における様々な地域福祉活動を振り返り、新たな発見を取り入れ、つながりを作っていくことで山口県の地域福祉活動を発展させていくことを目的に開催する。

- 2 主 催 社会福祉法人 山口県社会福祉協議会、日本地域福祉学会 中国地方部会
- 3 後 援 山口県、山口県民生委員児童委員協議会、山口県老人クラブ連合会
山口県地域包括・在宅介護支援センター協議会
(予定)
- 4 日 時 平成27年1月27日(火)
午前10時20分から午後3時30分まで
- 5 会 場 山口県教育会館 ホール外
山口市大手町2-18 TEL083-922-5766
- 6 定 員 500名
(会場収容人数の都合上、定員になり次第締め切らせていただきます)
- 7 参加費 1,000円

8 対 象

市町社会福祉協議会役職員、ボランティアコーディネーター、区市町行政職員、地区社会福祉協議会役職員、民生委員・児童委員、主任児童委員、福祉員、老人クラブ会員、自治会・町内会関係者、ボランティア、NPO、施設のボランティア担当、日本地域福祉学会中国地方部会員、その他地域福祉活動に興味のある方

9 日 程

※プログラムの詳細については、別添「研修会 プログラム」に記載しています。

9 : 2 0	受付
1 0 : 2 0	開会
1 0 : 3 0	基調講演 「住み慣れた地域で生活し続けていくために必要な 地域の仕組み、取組とは」(仮称) 講師：特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所 主任研究員 高橋 信幸 氏
1 2 : 0 0	昼食・休憩・移動
1 3 : 0 0	分科会 <u>▽分科会 1 【見守り・支え合い活動】</u> ※定員：390名 「誰も孤立させない地域づくり ～見守り・支え合い活動から地域づくりを考える～」 <u>▽分科会 2 【ふれあい・いきいきサロン活動】</u> ※定員：80名 「今、改めて期待されるサロンの役割や効果について ～誰もが気軽に集まれる魅力的なサロンとは～」 <u>▽分科会 3 【ボランティアコーディネーター】</u> ※定員：30名 「地域をつくる 未来をつくる ボランティアの巻き込みのツボ ～誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて～」
1 5 : 3 0	閉会

10 参加申込書の提出

平成27年1月9日(金)までに別添申込書に必要事項を記入し、下記宛てに郵送、FAX、メールのいずれかにてお申込みください。

※記入いただいた個人情報、研修会の運営目的のみに使用いたします。なお、当日資料に、所属先、役職名、氏名を掲載いたします。

11 分科会について

定員の関係で、希望される分科会に参加いただくことができない場合があります。希望者多数の分科会は先着順となり、定員に達した時点で締め切らせていただきますので御了承ください。

12 その他

- ・お弁当（お茶付き 600 円）を斡旋いたしますので、必要な方は参加申込書に記入してください。
- ・駐車場は、本会場以外に、県立図書館裏にも確保しておりますが、台数には限りがございますので、乗り合わせてお越しくくださるようお願いいたします。

13 申込み・問い合わせ先

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

地域福祉部 地域福祉班・ボランティアセンター

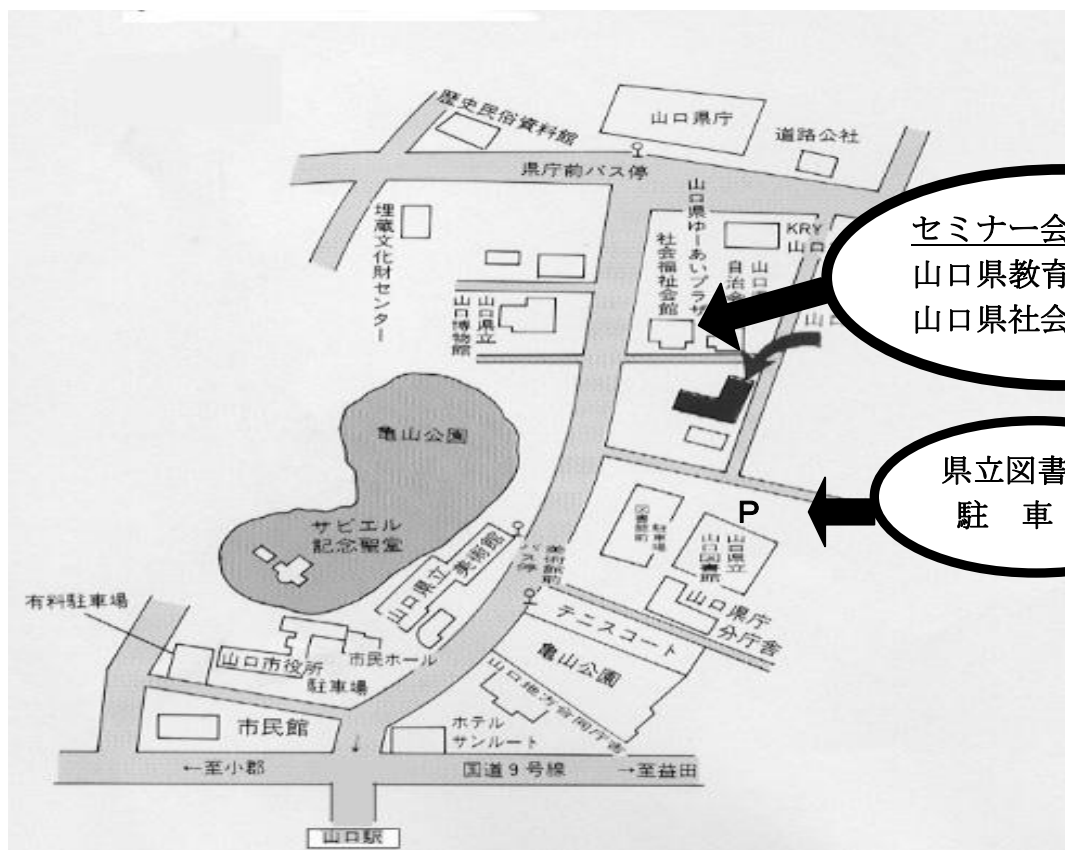
担当：内田、村田

〒753-0072 山口市大手町 9-6

TEL (083) 924-2828 FAX (083) 924-2847

e-mail chiiki@yg-you-i-net.or.jp

【会場地図】



研修会 プログラム

(午前10時20分から正午)【地域福祉推進セミナー】

◆基調講演 (場所：山口県教育会館 ホール)

「住み慣れた地域で生活し続けていくために必要な地域の仕組み、取組とは」(仮称)

講師：特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所 主任研究員 高橋 信幸 氏

《目的》

高齢者のみならず、障害者、児童、その他支援が必要な状況にある人に対して、その人が住み慣れた地域で生活し続けられるようにするために、今地域で何が求められているのか、必要となる専門職同士や専門職と地域のつながり、住民自身が主体的に支援をしていくための取組など、実践を交えながら学ぶことを目的とします。

《講師プロフィール》

昭和20年北海道生まれ・昭和43年東京都三鷹市役所入職。高齢者福祉行政に長く携わったあと平成10年に同市役所を退職して、長崎県佐世保市で長崎国際大学教授として平成23年3月まで勤務。その後現職につき、今に至る。

専門分野は福祉行政論、地域福祉論で、長崎県及び佐世保市・西海市などで保健・福祉、市民参加のまちづくり関連の審議会・委員会に所属したほか、地域福祉(活動)計画の策定に携わる。



(午後1時から午後3時30分)【小地域福祉活動者の集い】

▽分科会1「見守り・支え合い活動」(会場：山口県教育会館 ホール)

「誰も孤立させない地域づくり～見守り・支え合い活動から地域づくりを考える～」

コメンテーター：特定非営利活動法人

日本地域福祉研究所 主任研究員 高橋 信幸 氏

コーディネーター：山口県立大学社会福祉学部 学部長 草平 武志 氏

実践報告者：長門市俵山地区社会福祉協議会 コーディネーター 重村 法弘 氏

萩市田万川地域 須佐地自治会長 板井 英文 氏

下関市内自治会等 ※調整中

《目的》

地域の力が問われている今、住民相互のつながりづくりをすすめ、地域の中で見守り・支え合う仕組みづくりを進めていくことが求められています。

見守り・支え合い活動は地域づくりのきっかけとなるものです。

分科会1では、それぞれの特徴のある見守り・支え合い活動を通じて、どのように地域づくりを行ったのか、その視点や工夫を学ぶことを目的とします。

【実践報告内容】

①「見守り活動から生まれる住民同士のつながり」～黄色い旗運動の取組から～

報告者：長門市俵山地区社会福祉協議会 コーディネーター 重村 法弘 氏

長門市俵山地区では、対象者を限定しての見守り活動ではなく、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指そうと「俵山地区お互い様ネットワーク黄色い旗運動」に取り組んでおり、地区の全世帯を対象に、黄色い旗を掲げることで、住民全体で「見守り」「見守られ合う」仕組みをつくっています。

地域の子どもから大人まで全員が、黄色い旗運動に取り組むようになったきっかけ、そして、活動を通じて、住民同士の繋がりがどのように変化したのかお話しいただきます。

②「地域の力で命と暮らしを守る」～減災のすすめを通じた住民の取組から～

報告者：萩市田万川地域 須佐地自治会長 板井 英文 氏

山口・島根豪雨災害で甚大な被害を受けました。災害による被害を最小限に止めるためには、地域住民の防災意識を高め、日頃からの備えや地域コミュニティづくりが重要です。そこで集落ごとに地域の点検を行い、支援の必要な人たちが災害に対して身を守っていくための仕組みづくり「減災のすすめ」を萩市と社協で推進しています。

地域住民が災害をきっかけに、住民同士で支え合う新たな仕組みづくりをどのように地域で考えたのかその取組をお話しいただきます。

③「見守り・支え合いの仕組みから地域をつくる」～徘徊者声かけ模擬訓練から～

報告者：下関市内自治会等 ※調整中

下関市社協では、住民をはじめ、民生委員・児童委員、福祉員、自治会、地域包括支援センターや地域の福祉施設等と連携し、お互いに見守り、支え合うことのできる関係や仕組みづくりを進めています。

その一貫として各地区で行われている徘徊者声かけ模擬訓練は、地域住民に認知症への理解を促し、見守り意識を高めること、また、地域ぐるみ、多職種協働によるネットワーク構築等を目的に実施しています。

徘徊者声かけ模擬訓練を通じて、地域がどう変わったのか、またそこに住む住民の意識にどのような変化があったのか、お話しいただきます。

▽分科会2【ふれあい・いきいきサロン活動】

(場所：山口県社会福祉会館 4階 大ホール)

「今、改めて期待されるサロンの役割や効果について

～誰もが気軽に集まれる魅力的なサロンとは～

講師：九州大学大学院人間環境学研究院 教授 高野 和良 氏

実践報告者：光市「今殿いきいきサロン」※調整中

下関市「印内町ふれあいサロン」 代表 三好 信子 氏

《目的》

介護保険制度の改正や孤立に関する問題などの地域課題を受けて、住民が気軽に集まることのできるサロンが地域にとっていっそう必要とされます。

分科会2では、サロンを運営する上での課題を共有し、自分の地域のサロン活動を見つめ直すきっかけにすることを目的とします。

【実践報告】

①「サロン活動で地域を元気に！」～サロン活動を地域貢献活動につなげる取組み～(仮題)

報告者：光市「今殿いきいきサロン」 ※調整中

月2～3回のサロン活動を遊びの日、学びの日、奉仕の日に分けて行い、サロン活動を通して、地域を元気にするための様々なボランティアにも取り組んでいます。サロン活動を地域貢献活動につなげるに至った経緯や狙い、また、継続的に活動できているコツなどをお話ししていただきます。

②「多世代交流型サロンの取組」～誰もが気軽に集まることのできる場所づくり～(仮題)

報告者：下関市「印内町ふれあいサロン」 代表 三好 信子 氏

介護保険制度の改正や孤立に関する地域課題を受けて、誰もが気軽に集まることのできるサロンが必要になってきますが、対象者を限定しないサロンを発足するに至った経緯や狙いはなんなのか、また多世代型サロンがもたらす参加者及び地域への効果などをお話ししていただきます。

【講義】

講師：九州大学大学院 人間環境学研究院 教授 高野 和良 氏

そもそもサロンとはなんのためにあり、誰のためにあるのか、サロン活動の目標はなにかを見直し、県内のサロンの事例を挙げつつ、サロン活動を継続して行うための運営方法を担い手の課題や現状を踏まえてお話ししていただきます。

【情報交換】

講義や実践報告を受けて、サロンを運営するために取り入れていきたい工夫や誰もが気軽に集まることのできる場として、今あるサロンをどのように生かしていくかを参加者で話し合います。

▽分科会3【ボランティアコーディネーター】
(会場：山口県教育会館 5階 第1研修室)

「地域をつくる 未来をつくる ボランティアの巻き込みのツボ
～誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて～」

講師 : 山口市市民活動支援センターさぼらんて
センター長 渡辺 洋子 氏

実践報告者 : 岩国市社会福祉協議会 ※調整中

《目的》

現在、ボランティアの活動者数が山口県内でも減少傾向にありますが、その背景としてボランティア活動者の高齢化や新規のボランティア活動の担い手の不足等の問題が挙げられます。

分科会3では、社協・施設・NPOなどがボランティアをどう確保し、どう養成していくのかを学ぶことを目的とします。

【全体ワーク】

「ボランティアって必要？ボランティアの意義を考えよう」

ボランティアを行うことの意義とはなにか、ボランティアを始めようと思うきっかけはなにかを参加者で話し合い、ボランティアの必要性を共有します。

【実践報告】

「岩国市社協のボランティア養成講座から岩国お助けネット充実へ」

報告者：岩国市社会福祉協議会 ※調整中

高齢者を支える地域活動に自分の趣味・仕事の技術・得意分野を生かしたいという市民を対象に岩国お助けネット入門アカデミー講座を実施したところ多くの受講者が集まりました。この受講者を地域の担い手確保につなげるために、どうすればよいか、岩国市社協の取組を通して考えます。

【全体ワーク】

「地域をつくる 未来をつくる ボランティアの巻き込みのツボ」

ボランティアの主体性、趣味、年代などを考慮した上で、それぞれに合ったボランティアへの巻き込み方を参加者で考えます。